

製品名: USP11 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19662**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	105kDa

抗原情報

遺伝子名	USP11
別名	USP11; UHX1; Ubiquitin carboxyl-terminal hydrolase 11; Deubiquitinating enzyme 11; Ubiquitin thioesterase 11; Ubiquitin-specific-processing protease 11
遺伝子 ID	8237.0
SwissProt ID	P51784
免疫原	ヒト USP11 の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

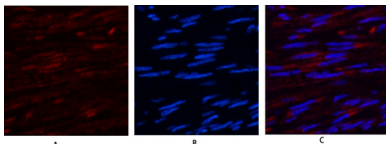
タンパク質のユビキチン化は、細胞周期の進行、転写活性化、シグナル伝達など、多くの細胞内プロセスを制御します。ユビキチン

結合酵素と脱ユビキチン化酵素が関与するこの動的なプロセスは、ユビキチンの付加と除去を行います。脱ユビキチン化酵素は、ユビキチン結合タンパク質基質からユビキチンを特異的に切断するシステインプロテアーゼです。この遺伝子は、染色体 Xp11.23 上の遺伝子クラスターに位置する脱ユビキチン化酵素をコードしています (RefSeq 提供、2008 年 7 月)。触媒活性: ユビキチン C 末端チオエステル + H(2)O = ユビキチン + チオール。類似性: ペプチダーゼ C19 ファミリーに属する。類似性: 1 つの DUSP ドメインを含む。サブユニット: RANBP9/RANBPM と相互作用する。

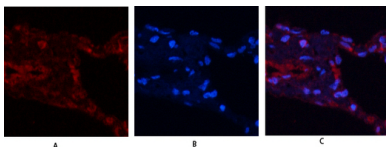
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

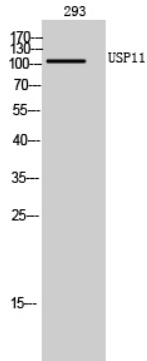
画像データ



ヒト子宮組織の免疫蛍光染色。1, USP11 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, USP11 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



USP11 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。